

◇アリナミン効果

大槻伸次

平成 28 年度の菱の実会総会に同席した A 氏が、両手首先にしびれがあり握力も減退し医者に診てもらったが、原因は不明だと云っていたのを耳にした。そこで、私の父が 50 歳代の頃、患った病気の症状に一寸似ていたので父の体験談（アリナミンが劇的に効いた）を話した。その数か月後、菱の実会の親睦旅行に参加した折、A 氏からアリナミン EX（市販薬）を試してみたが、残念ながら効果が感じられなかったと聞いた。薬は病に適合したものでなければ効果はないであろうが、病には何か原因がある筈で、諦めずに色々試してみるのも無駄なことではないと考える。そこで、父と家族を暗闇のどん底に追い落としたり、不治の病（と云われた）から光明を見出すまでの父の闘病の記録を纏めてみました。

父は生まれつき頑健でなかったが、だからといって寝こんでしまうほどの大病を患ったことはなかった。ところが、あるときから（昭和 35～37 年頃・父 51 歳頃）手足がしびれ握力が減退したと身体の不調を訴えるようになった。そこで、掛かりつけ医である近くの町医者に診てもらったところ過労からだろうという診断だった。それから 1～2 年余り経過しても症状は一向に改善せず、次第に身の些細な動作も不自由になって段々母の介助が無いと 1 人でトイレにも行けなくなってしまった。

その様子を診断したドクターは、年配の人はあまり罹らない病気だと前置きし、「筋萎縮症」の症状に似ていると診断した。診断に間違いがなければ筋萎縮症は完治する可能性がないので、このまま私のところへ通院してもらっても医療費がかさむだけで、大槻さん宅は破産すると迄云われてしまった。そこで、GM 大学病院を紹介するから改めて精密検査をしてもらったらどうかと勧められた。そんな中、唯一つの救いだったのは、不治の病のような病気でも父は悲観したような様子を一切見せず、毎日が読書三昧の日々で、神様がたまには楽をしろと云っていると冗談を言って見せた。（当時、我が家には農耕馬等がいなかったため、農作業の全てが手作業だった。そこで、我々子ども達も重要な労働力で、毎日のように農作業に動員された。）

母曰く、父ちゃんは悲観しないからいい性格だといっていたが、内心は家族の今後の生活についてどうしたらいいか深刻に悩んでいたのではと察した。

私自身も父の容態に悲観し、お土産なんて買ったことは無かったが、万が一の時後悔しないように果物や甘いお茶菓子などを時々プレゼントした。

母は、掛かりつけ医から GM 大学病院を紹介されたということは見放されたのと同じことだと深刻に悩んだ。そこで、思案の末、本家の兄（父の兄）に相談したところ、親戚が KO 大学医学部の教授をしているので診てもらえるよう連絡を取ってくれることになった。しばらくして教授から連絡があり、近々前橋の GM 大学病院に行く用事を作るので、その時診察してくれるとの返事があった。そして約束当日ハイヤーを借り切って GM 大学病院に出向き診察してもらったところ「筋萎縮症」ではないといわれた。（カタカナの病名を聞いたが、忘れてしまった）。

流石、KO 大学医学部教授だなと神様のように思えた。ただ残念なことに、この病気の治療法や特効薬は無いと云われ母は落胆し絶句してしまった。その後、教授はしばらく間をおいてから、もしかしたら武田薬品の大量服用であるアリナミンの大量服用療法は試してみる価値が、あるかもしれないというようなことをぽつり言った。

当時、アリナミン錠は武田薬品から発売された活性持続型ビタミン剤であったが、高価で1粒当たりの単位が1ミリという錠剤しかなかった。そこで、大量療法をするには、毎日手のひらに山盛りになるほどの量を飲まなければならなかったが、神にすぎる思いで早速服用を開始した。ところが、なんとなんと奇跡は起きたのである。

達磨さんみたいにコチンコチンに固まってしまった父が、大量療法をはじめてから1日1日と劇的に回復し、1週間程度の服用で畑仕事ができるほどまでに回復したのである。この目を見張るほどの回復に、この世の中に、こんなに効く薬があるものなのかと家族みんなで驚き感激し涙してしまった。ところが、初期のアリナミン錠はニンニク臭がすごく強かったので、父はととも強いニンニク臭がした。

アリナミン錠は、その後改良が進みニンニク臭は少なくなり、一錠あたりの単位の大きいのが出回るようになり量を飲まなくてもよいようになった。

その後、武田薬品にて「アリナミン効果」についての体験談を募集するというイベントがあったので、父はねじり鉢巻きで執筆し早速応募した。ところが、その後待てど暮らせど何の音沙汰もなく応募した事すら忘れてしまっていた。そんな或る日のこと「菊池寛大全集」が、太田駅止めになっているという知らせがあった。

母は、普段から父の本道楽には呆れていたもので、家族に内緒で注文したのだらうと思ったようだがそれは大違いだった。よくよく確かめたらアリナミンの服用による健康回復の体験談が武田薬品に採用され、そのお礼として菊池寛大全集全巻がプレゼント（父が希望した）され贈られてきたものと判明した。

アリナミン錠により健康を回復した父は、リヤカーを引いてテクテクと3キロ先の太田駅止めになっていた荷物を引き取りにいった。(2021/2/20 記)

余談

▼令和2年(2020年)7月24日の毎日新聞朝刊一面に“ALS(筋委縮側索硬化症)囑託殺人で2医師逮捕される”というショッキングな記事が載ったが、父が宣告された病を思いだした。(結果的には誤診だったが。)

▼ネットを見ていたら(NEWSポストセブン)武田薬品工業は、ビタミン剤「アリナミン」や「ベンザブロック」などで知られる一般用医薬品を、米投資ファンド大手に売却すると正式に発表したそうである(2021/3/31売却完了)。現在のタケダはバイオ企業で医療用に集中するためということであるらしい。

かつての武田はアリナミン王国で、1960年代には全利益の半分をアリナミンが稼ぎ出すというお化け商品に育ちアリナミン王国を築いた。また、「アリナミン」は武田の名前を全国区にした看板商品(1954年発売)でもあり「タケダ タケダ タケダ」のCMソングを聴かない日はなかったのである。